

## 第2期須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和2年度実績評価

### 1 評価の概要

本市では、人口減少社会に向き合い、地域経済縮小を克服するため、平成27年10月に「須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、本市ならではの強みや特長を最大限生かしながら、「まち・ひと・しごとの好循環」を具体化するための施策戦略に取り組んできました。

令和2年3月には、第1期で根付いた地方創生の意識や取組を継続し、一層の充実・強化に切れ目なくつなげるため、国や県の総合戦略改訂を踏まえて、令和2年度から令和4年度までの3年間を計画期間とする「第2期須賀川市まち・ひと・しごと創生総合戦略」(以下、総合戦略)として改訂しました。

本市の総合戦略は、基本となる4つの柱のもと、11の施策戦略と数値目標、26の基本事項と52の重要業績評価指標(KPI)をそれぞれ設定し、これを基にPDCAサイクルによる検証を行うため、今回、令和2年度の実績について評価を取りまとめました。

※重要業績評価指標(KPI):Key Performance Indicatorの略称、事業ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(目標値)

### 2 評価の結果【参考値】

基本となる柱	施策戦略の数値目標					基本事項のKPI				
	向上	横ばい	低下	実績値なし	合計	向上	横ばい	低下	実績値なし	合計
1 産業力を強化するまちづくり	0	1	2	0	3	5	0	8	1	14
2 すかがわの宝を生かしたまちづくり	0	3	0	0	3	2	1	9	0	12
3 子どもたちの笑顔あふれるまちづくり	0	1	0	1	2	3	2	5	2	12
4 健康な暮らしを守るまちづくり	0	1	2	0	3	4	2	7	1	14
合計	0	6	4	1	11	14	5	29	4	52
割合	0.0%	54.5%	36.4%	9.1%	100%	26.9%	9.6%	55.8%	7.7%	100%

※実績値の「-」は、2年に1度実施する市民アンケート、国勢調査など各種調査による数値のため該当年度に実績値が未取得であるもの、または、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が実施できなかったため実績がないものです。(令和2年度は市民アンケート実施年度のため、数値を取得しています。)

#### 【進捗状況】

令和4年度の目標値達成に向けて、実績値が総合戦略策定時に設定した値(以下、「基準値」。総合戦略では現状値と表記しています。)に対して、どのような進捗状況にあるかを右表のとおり「矢印の向き」で示します。

なお、令和2年度においては、数値目標、KPIのいずれの指標とも新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、基準値との比較が難しいため、個々の指標での進捗状況は記載していません。

数・値 K 目 P 標 I	進捗状況	基準
	↗	目標値達成に向けて、向上しているもの
	→	目標値達成に向けて、横ばい※であるもの
	↘	目標値達成に向けて、低下しているもの

※市民アンケート等の各種アンケートにより取得している数値目標・KPIについては、統計誤差を踏まえて、基準値との差が±3%の範囲内の場合、「横ばい」としています。

### 3 検証

市内各界各層の代表者などの外部有識者で構成する須賀川市まちづくり推進会議を開催し、実績に対する客観的な検証を行いました。今回の評価結果と外部有識者の意見を踏まえながら、今後も計画的に地方創生を推進していきます。

## 4 評価

### 1 産業力を強化するまちづくり

#### 施策戦略1-(1) 雇用の創出と多様な就業環境の整備

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
有効求人倍率(年平均)	1.26倍	0.93倍			1.3倍	—
<p>【数値目標の傾向】 「有効求人倍率(年平均)」は、新型コロナウイルス感染拡大による経済の停滞や先行きの不透明感から企業の求人数が減少したことなどにより、基準値と比べ低下したと考えられます。</p> <p>【施策戦略の総合評価】 市内中小企業、小規模事業者の事業継続、雇用の維持を図るため、「店舗等維持補助金」「感染拡大防止経費補助金」等の市独自の助成制度など、各種支援に取り組んでいます。</p> <p>引き続き、商工会議所や商工会などの関係機関と情報共有を密にしながら、より効果的な新型コロナウイルス感染症対策に努めるとともに、収束状況を見ながら地域経済を活性化させる施策や就業支援に取り組む必要があります。</p>						

#### 基本事項① 企業誘致の推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
市内立地企業数(平成25年度以降の累計)	7社	9社			10社	—
市内立地企業による雇用数(平成25年度以降の累計)	158人	221人			200人	—
<p>【主な状況、成果、課題等】 「市内立地企業数」及び「市内立地企業による雇用数」は、本市の持つ立地条件の優位性、全国トップクラスである企業立地支援制度や国の「津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金制度」の周知などにより、基準値と比べ増加しました。なお、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、企業への周知機会が減ったこと、また、企業の景況が不安定であったことから、新たな企業の進出はありませんでした。</p> <p>今後は、新型コロナウイルス感染症の影響による企業の動向を注視しながら、各種支援制度等の浸透を図るとともに、企業ニーズに応じた支援策の実施・拡充を図っていく必要があります。</p>						

基本事項② 女性・障がい者・高齢者などの就業環境の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
市及び関係機関で行っているセミナー等参加者数	143人	84人			160人	—
ふるさと回帰支援事業利用者数	11人	7人			15人	—

【主な状況、成果、課題等】

「市及び関係機関で行っているセミナー等参加者数」及び「ふるさと回帰支援事業利用者数」は、合同就職面接会や就職ガイダンスなど、それぞれの求職者に応じた企業とのマッチングの機会を設け、就職支援を行うものですが、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止又は内容を変更して実施したこと、企業の採用意欲が減少していることなどから、基準値と比べ減少しました。

引き続き、企業の動向を注視しながら、開催方法の在り方や支援策の拡充を図っていく必要があります。

施策戦略1-(2) 農業の担い手の育成・確保と地域特産物ブランド化の推進

数値目標	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
農産物の売上額 (JA)	4,983百万円	4,960百万円			5,000百万円	—

【数値目標の傾向】

農産物の売上額 (JA) は4,960百万円で、基準値と比べ23百万円減少していますが、前年度 (4,876百万円) と比較し、84百万円増加しており、基準値と比べ横ばいで推移していると考えられます。

【施策戦略の総合評価】

出荷量や販売額は、気象状況などにより大きく影響を受けますが、所得向上を図るため、農商工連携を推進し、地産地消による市内での販売先の拡大や市外での流通販売などの拡充に努めるとともに、自然災害などによる収入の減少を補填する「収入保険制度」の加入促進、事業継続計画 (BCP) の策定支援などを推進します。

農業の担い手確保に向けては、就農支援や農地の集積推進、耕作放棄地の再生・利用などに加え、労働の省力化を図りながら安定的な生産量を確保することが期待できるスマート農業の普及、拡大に努めていく必要があります。

基本事項① 農業担い手の育成・確保

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
認定農業者率	7.7%	7.0%			9.3%	—
担い手への農地利用集積面積 (累計)	3,061.3ha	3,238.1ha			3,500ha	—

【主な状況、成果、課題等】

「認定農業者率」は、農業従事者の高齢化などに伴う担い手不足により、基準値と比べ低下しています。

「担い手への農地利用集積面積 (累計)」は、これまでに進めてきた土地改良事業や農地集積事業などの効果により、基準値と比べ増加しています。

農業従事者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増大など、農業を取り巻く現場は大変厳しい状況にあるため、今後は、地区内中核的担い手農家への農地集積、耕作放棄地の再生・利用などを重点的に取り組むとともに、一戸当たりの農業所得の安定・向上を図る必要があります。

## 基本事項② 農産物の生産振興

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
代表的な産地指定農産物のJA出荷量 (キュウリ)	5,270t	4,962t			6,440t	—
代表的な特産農産物のJA出荷量 (日本ナシ)	1,156t	684t			1,290t	—

### 【主な状況、成果、課題等】

「代表的な産地指定農産物のJA出荷量(キュウリ)」及び「代表的な特産農産物のJA出荷量(日本ナシ)」は、高齢化による農家戸数・作付面積の減少に伴う生産量・出荷量の減少や黒星病や果樹カメムシなどの病害虫の発生などにより、基準値と比べ減少しました。

特産農産物の夏秋きゅうり出荷量は、近年減少傾向にあることから、今後は、国・県補助事業を活用した効率化、栽培環境の強化や新規きゅうり栽培農業者の確保に努めるとともに、防虫ネットや雨よけ栽培等の支援を行うなど、生産基盤の強化を図る必要があります。

## 基本事項③ 特産農産物の販売促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
代表的な産地指定農産物のJA販売額 (キュウリ)	1,885百万円	1,801百万円			1,900百万円	—
代表的な特産農産物のJA販売額 (日本ナシ)	293百万円	324百万円			365百万円	—

### 【主な状況、成果、課題等】

「代表的な産地指定農産物のJA販売額(キュウリ)」は、アンテナショップや各種イベントでの農産物PRを中止したことなどにより、基準値と比べ減少しました。一方、「代表的な特産農産物のJA販売額(日本ナシ)」は、風評被害に対する安全・安心のPR効果、国内全体の供給量の減少による高値取引、巣ごもり需要の高まりなどにより、基準値と比べ増加したと考えられます。

今後は、地産地消のさらなる普及や啓発を推進し、首都圏などへの農作物のPRや多様な販路の開拓を図るとともに、第三者認証GAP取得の推進など、地域特産物のブランド化支援に努める必要があります。

## 施策戦略1-(3) 商工業の競争性の向上

数値目標	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
経営状況が良いと感じている事業所の割合	16.7%	8.3%			20.0%	—

### 【数値目標の傾向】

「経営状況が良いと感じている事業所の割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、基準値と比べ大きく低下したと考えられます。

### 【施策戦略の総合評価】

中心市街地の活性化は、市庁舎や市民交流センター、風流のはじめ館の開館などにより、中心市街地への来訪者が増加したため指標が上昇している一方、商工業の育成支援は、新型コロナウイルス感染症の影響による需給関係の変化や社会経済状況などにより、指標が低下しています。

今後も、企業訪問などにより市内事業者のニーズを把握し、効果的な事業者支援策の実施・拡充を図っていくとともに、新型コロナウイルス感染症の収束状況を見ながら地域経済の活性化施策に取り組む必要があります。

### 基本事項① 商工業の育成支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H28)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
市内卸売・小売業年間売上高	131,949百万円	—			133,000百万円	—
市内製造品出荷額等	167,352百万円	162,741百万円			200,000百万円	—

#### 【主な状況、成果、課題等】

「市内卸売・小売業年間売上高」は、商業統計調査及び経済センサス活動調査に基づき取得していますが、令和3年9月時点で公表されていないため、実績値は取得できませんでした。

「市内製造品出荷額等」は、緊急事態宣言など新型コロナウイルス感染症の影響などにより、基準値と比べ減少しました。

今後は、工業製品の認定をはじめ、ふるさと商品の市ホームページや特設サイトでの情報発信による販路開拓を支援するとともに、中小企業の人材育成に対する支援や企業間ネットワークセミナーの開催など、引き続き、既存企業の育成支援に努める必要があります。

### 基本事項② 中心市街地の活性化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
休日歩行者通行量	1,960人/日	2,992人/日			2,400人/日	—
新規出店数(3年間の累計)	18店舗 (2013～2018)	16店舗 (2019～2020)			20店舗 (2020～2022)	—

#### 【主な状況、成果、課題等】

「休日歩行者通行量」は、市民交流センターや風流のはじめ館の開館による中心市街地への訪問機会の増加、それに伴う周辺店舗等の認知向上などから、まちなか回遊がより促進されたことにより、基準値と比べ増加したと考えられ、目標値を上回っています。

「新規出店数(3年間の累計)」は、2年間で16店舗の出店があり、目標達成に向け順調に出店が図られています。

今後は、「須賀川市中心市街地公共空間活用ガイド」に基づき、市庁舎、市民交流センター、風流のはじめ館、翠ヶ丘公園など公共空間の民間利活用の推進やまちなか出店に対する支援などを行い、中心市街地のさらなる魅力向上を図る必要があります。

## 2 すかがわの宝を生かしたまちづくり

### 施策戦略2-(1) 特撮文化拠点都市の構築とブランド力の向上

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
特撮文化が須賀川市の特長だと思う市民の割合	87.5%	87.5%			90.0%	—
<p>【数値目標の傾向】 「特撮文化が須賀川市の特長だと思う市民の割合」は、基準値と比べ横ばいで推移しています。</p> <p>【施策戦略の総合評価】 新型コロナウイルス感染症の影響による事業の中止や施設の休館などにより、基本事項の指標は低下していますが、ウルトラマン関連事業や円谷英二ミュージアムの認知が進んでいること、令和2年11月の須賀川特撮アーカイブセンターの開館などによって、特撮文化が市民にとって、より身近になってきていると考えられます。 今後は、市内外の特撮文化関連施設、関係機関等との連携による相乗効果が図られるよう、連動した取り組みや積極的な情報発信に努め、事業を進めていく必要があります。</p>						

### 基本事項① 特撮文化拠点都市の構築・発信

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
特撮文化推進事業実行委員会主催事業の来場者数	0人	0人			250人	—
円谷英二ミュージアム来館者数	23,162人 (H31.1.11~3.31)	22,772人			50,000人	—
<p>【主な状況、成果、課題等】 「特撮文化推進事業実行委員会主催事業の来場者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、集客事業をすべて中止したため、実績値は取得できませんでした。 「円谷英二ミュージアム来館者数」は、基準値が年間を通じた来館者数ではないため、比較はできませんが、新型コロナウイルス感染症や令和元年福島県沖地震による休館などの影響により、目標値を下回りました。 今後は、令和2年11月に開館した特撮アーカイブセンターなどと連携しながら、新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた事業の展開を図る必要があります。</p>						

## 基本事項② 地域資源・ブランドを活用したイメージアップの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
地域ブランド力活用事業を活用し売上が増加した事業者数	10社	8社			12社	—
仮想都市「すかがわ市M78光の町」住民登録者数	15,283人	18,949人			20,000人	—
<b>【主な状況、成果、課題等】</b> 「地域ブランド力活用事業を活用し売上が増加した事業者数」は、円谷英二監督との関連性のあるキャラクターや市マスコットキャラクターを活用した商品開発等への補助や販路拡大支援に取り組みましたが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、基準値と比べ減少しました。 今後は、具体的な活用事例などを明示しながら、さらなる制度や商品の周知を図っていく必要があります。 「仮想都市『すかがわ市M78光の町』住民登録者数」は、WEBサイトから参加できるイベントや情報発信を実施したことなどにより、基準値と比べ増加しました。 今後も、市内のウルトラマン関係団体と連携を図りながら、継続的にPR活動を展開する必要があります。						

## 施策戦略2-(2) スポーツ振興によるイメージアップ戦略の展開

数値目標	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
スポーツに親しんでいる市民の割合	56.2%	55.6%			65.0%	—
<b>【数値目標の傾向】</b> 「スポーツに親しんでいる市民の割合」は、基準値と比べ横ばいで推移しています。 <b>【施策戦略の総合評価】</b> 新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館をはじめ、スポーツ大会やスポーツ教室の中止などにより、市民がスポーツに親しむ機会が減少しました。 今後は、新型コロナウイルス感染症への対策や市民ニーズに応じた大会・教室の開催など、安全、安心にスポーツが行える環境整備に引き続き取り組む必要があります。						

## 基本事項① スポーツによるイメージアップの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
円谷幸吉メモリアルマラソン大会参加者数	3,084人	0人			3,200人	—
激励金受給者の上位大会(東北大会以上)での入賞者数	57人	25人			65人	—
<b>【主な状況、成果、課題等】</b> 「円谷幸吉メモリアルマラソン大会参加者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となり、実績値は取得できませんでした。 「激励金受給者の上位大会(東北大会以上)での入賞者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響で各種大会の中止が相次いだため、基準値と比べ大きく減少しました。 今後は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた開催方法や新型コロナウイルス感染症収束後のスポーツによるイメージアップの推進の在り方について、更に検討する必要があります。						

## 基本事項② 生涯スポーツ活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
スポーツ大会・教室の参加者数	34,579人	5,615人			41,800人	—
スポーツ施設の利用者数	526,436人	249,415人			601,500人	—

### 【主な状況、成果、課題等】

「スポーツ大会・教室の参加者数」及び「スポーツ施設の利用者数」は、新型コロナウイルスの感染症の影響による施設休館及びスポーツ大会など各種事業の中止や規模縮小のほか、令和元年東日本台風で被災した須賀川アリーナの災害復旧工事や武道館改修工事による休館などにより、基準値と比べ大きく減少しました。

今後は、ニューノーマルを前提としたスポーツを行う機会を提供し、大会・教室の参加者数の増加に努めていく必要があります。

## 施策戦略2-(3) 地域資源を活用した観光振興と交流の推進

数値目標	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
休日14時に本市に滞在していた人数	58,685人	59,046人			60,400人	—

### 【数値目標の傾向】

「休日14時に本市に滞在していた人数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により県外からの来訪者が減った一方、市外への移動を自粛した市民が多かったと推測され、基準値と比べ横ばいで推移していると考えられます。

### 【施策戦略の総合評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模イベントの中止や福島空港の利用需要の落ち込み、文化団体活動の自粛など、交流の推進につながる動きが減少していますが、今後は、ニューノーマルに対応したイベントの開催や新たな観光の方策などについて、関係機関と連携して新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた観光事業の推進を図る必要があります。

## 基本事項① 文化交流拠点を活用した交流の推進と文化の創造

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
市民交流センター来館者数	153,163人 (H31.1.11～3.31)	369,103人			600,000人	—
文化芸能の活動をしている団体に所属している市民数	3,982人	3,384人			5,000人	—

### 【主な状況、成果、課題等】

「市民交流センター来館者数」は、基準値が年間を通した来館者数ではないため比較はできませんが、新型コロナウイルス感染症の影響により、休館や開館時間短縮、各種イベントの中止や参加者数の制限などがあった一方、図書館が継続して多くの方に利用されたとともに、講座のオンライン動画配信など、感染防止対策を講じながら住民のニーズに応じた事業を開催に努めました。

「文化芸能の活動をしている団体に所属している市民数」は、会員の高齢化、団体や新規会員の減少、新型コロナウイルス感染症の影響による活動自粛などにより、基準値と比べ低下しました。

今後は、風流のはじめ館や市民交流センターなどとの連携により、幅広い世代の市民が文化活動に参画できるよう努めていく必要があります。



基本事項② 観光振興やインバウンドなどの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
観光庁策定「観光入込客統計に関する共通基準」に係る観光入込客数	1,247,266人	782,400人			1,500,000人	—
福島空港の利用者数	267,356人	68,355人			300,000人	—

【主な状況、成果、課題等】

「観光庁策定『観光入込客統計に関する共通基準』に係る観光入込客数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光需要が大きく落ち込むとともに、釈迦堂川花火大会や松明あかしなどの大規模イベントが中止・規模縮小となるなど、基準値と比べ大きく減少しました。

「福島空港の利用者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により運航便数の激減、利用需要の落ち込みなどから、基準値と比べ大幅に減少しており、開港以来最少人数となりました。

今後は、ニューノーマルに対応したイベントの開催や新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えた観光事業の展開を図る必要があります。

### 3 子どもたちの笑顔あふれるまちづくり

#### 施策戦略3-(1) 安心して出産・子育てができる環境の充実

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
この地域で子育てをしたいと思う3歳児以下の子どもを持つ保護者の割合	96.9%	97.1%			97.0%	—

**【数値目標の傾向】**

「この地域で子育てをしたいと思う3歳児以下の子どもを持つ保護者の割合」は、基準値と比べ横ばいで推移しています。

**【施策戦略の総合評価】**

市民交流センター内のこどもセンターや健康づくり課内の子育て世代包括支援センターに専門の担当職員を配置し、妊娠から、出産、子育てまで気軽に相談できる体制を整え、切れ目ない支援を行っていることなどから、妊産婦と子どもの健康管理支援体制の充実に係る指標は向上しています。一方で、特に待機児童数に関する指標は低下しており、引き続き、保育士等の人材確保や施設の整備などの対策を図るとともに、認定こども園、幼稚園、保育所での預かり保育や一時保育、延長保育、病児・病後児保育などの特別保育の受け入れ環境の整備・充実に取り組んでいく必要があります。

#### 基本事項① 幼児教育・保育、学童保育などの充実

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
保育所、幼稚園、こども園の待機児童数	20人	26人			0人	—
放課後児童クラブの待機児童数	3人	51人			0人	—

**【主な状況、成果、課題等】**

「保育所、幼稚園、こども園の待機児童数」及び「放課後児童クラブの待機児童数」は、子どもの数は減少しているものの、核家族化の進行や保護者の就労形態の多様化などに伴う需要の増加、保育士不足の深刻化などにより、基準値と比べ増加しました。

引き続き、施設拡充や整備への補助、処遇改善による保育士確保や財政的支援などを強化するなど、受入れ定員の維持、拡大に努める必要があります。

### 基本事項② 子育て支援の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
子育て支援事業を利用した保護者の数	31,358人	16,936人			32,000人	—
こどもセンター施設利用者数	28,404人 (H31.1.11～3.31)	28,616人			80,000人	—

#### 【主な状況、成果、課題等】

「子育て支援事業を利用した保護者の数」は、基準値と比べ大きく減少しました。また、「こどもセンター施設利用者数」は、基準値が年間を通した利用者数ではないため比較できませんが、前年度(101,697人)と比べ減少しました。これらは新型コロナウイルス感染症の影響により保護者が外出を控えるとともに、市民交流センターや保育所等で施設の休館や一部利用制限を行ったことが要因と考えられます。

今後は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、こどもセンターと子育て世代包括支援センター等との連携による子育て支援体制の充実を図る必要があります。

### 基本事項③ 妊産婦と子どもの健康管理支援体制の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	87.8%	90.6%			91.0%	—
乳幼児健康診査における問診項目(10項目)が全国の直近の平均値を上回る項目数	7項目	8項目			10項目	—

#### 【主な取組状況、成果、課題等】

「ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合」及び「乳幼児健康診査における問診項目(10項目)が全国の直近の平均値を上回る項目数」は、妊娠・出産・子育てにおける不安解消を目指した妊娠期からの家庭訪問や健康相談などにより、切れ目のない支援体制の構築に努めたことから、基準値と比べ向上したと考えられます。

今後は、核家族の増加、生活習慣の多様化などによる社会環境変化に対応するため、個々の状況に応じたきめ細やかな支援に努める必要があります。

### 施策戦略3-(2) 「小中一貫教育」須賀川モデルの推進

数値目標	基準値 (R01)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
ふくしま学力調査において正答率が県平均を上回っている科目数	2/10科目(20.0%)	—			7/10科目(70.0%)	—

#### 【数値目標の傾向】

「ふくしま学力調査において正答率が県平均を上回っている科目数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ふくしま学力調査が実施されなかったため、実績値は取得できませんでした。

#### 【施策戦略の総合評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により、教育現場が大きく変化していくなかで、子どもたちの学びを保障できる環境を整えていくとともに、不登校児童に対するきめ細かな対応や今まで以上に学校、家庭、地域社会の連携強化を図っていく必要があります。

### 基本事項① 開かれた学校づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
学校の行事等に参加・協力している市民の割合（中学生以下の子どもを持つ保護者は除く）	12.2%	7.5%			16.7%	—
学校評議員による学校評価の平均点数（5点満点）	4.3点	4.3点			4.5点	—
<p>【主な状況、成果、課題等】</p> <p>「学校の行事等に参加・協力している市民の割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校行事や地域行事が中止となったことなどにより、基準値と比べ低下したと考えられます。</p> <p>「学校評議員による学校評価の平均点数」は、「安全・安心な教育環境」、「特別支援教育の充実」項目など、5点満点の評価を得た項目も多く、取り組みの成果が評議員や地域の方々に伝わっていることなどから、基準値と比べ横ばいで推移しています。</p> <p>今後は、保護者や地域住民との協力体制を整えるなど、学校、家庭、地域社会の連携強化に努め、引き続き地域に開かれた学校づくりを推進する必要があります。</p>						

### 基本事項② 確かな学力の向上と環境整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
小6における国語・算数の正答率が県平均を上回っている科目数	0科目	—			2科目	—
中2における国語・数学の正答率が県平均を上回っている科目数	1科目	—			2科目	—
<p>【主な状況、成果、課題等】</p> <p>「小6における国語・算数の正答率が県平均を上回っている科目数」及び「中2における国語・数学の正答率が県平均を上回っている科目数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、ふくしま学力調査が実施されなかったため、実績値は取得できませんでした。</p> <p>令和2年度は学校休業など「子どもたちの学びの保障」が課題となったため、GIGAスクール構想を推進し、緊急時においてもICTの活用により子どもたちの学びを保障できる環境づくりを重点的に取り組みました。引き続き、ICTに対応した環境整備や教職員の資質・指導力の向上に努め、確かな学力の習得に向け体制を整備していく必要があります。</p>						

### 基本事項③ 心の教育の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
1,000人当たりの不登校児童・生徒数	13.0人	9.8人			8.1人	—
不登校児童・生徒学校復帰率	12.0%	5.0%			30.0%	—
<p>【主な状況、成果、課題等】</p> <p>「1,000人当たりの不登校児童・生徒数」は、基準値と比べ向上しています。一方で、「不登校児童・生徒学校復帰率」は、不登校の要因や背景の複雑化により短期間での復帰が難しくなっていることなどから、基準値と比べ低下しています。</p> <p>引き続き、不登校となる問題の未然防止や早期解決を目指した関係機関との連携、個々の要因や背景に応じたきめ細やかな指導、「心の教室相談員」「スクールソーシャルワーカー」「緊急時スクールカウンセラー」による児童生徒及び保護者との相談機会を設けるなど、家庭や関係機関と連携した取り組みに努める必要があります。</p>						

## 4 健康な暮らしを守るまちづくり

### 施策戦略4-(1) 全世代が健康な暮らしを続けられるまちづくりの推進

数値目標	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
この1年間に健康診断を受けている市民の割合	74.4%	70.1%			80.0%	—
<p>【数値目標の傾向】 「この1年間に健康診断を受けている市民の割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響により集団検診をすべて中止したことなどから、基準値と比べ低下しています。</p> <p>【施策戦略の総合評価】 新型コロナウイルス感染症の収束後、数値は向上していくものと考えますが、引き続き未受診者への勧奨やわかりやすい受診方法の周知など、健診受診率向上のための取り組みを続けていく必要があります。</p>						

### 基本事項① 生涯を通じた健康づくりの推進

重要業績評価指標(KPI)	基準値(H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
健康長寿健診の受診率	11.3%	—			13.0%	—
ふくしま健民カード発行件数	47件	39件			100件	—
<p>【主な状況、成果、課題等】 「健康長寿健診の受診率」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、健康長寿健診を中止したため、実績値は取得できませんでした。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響下での高齢者の行動や健康の状況について把握するため、代替事業として調査票を用いた追加調査を実施した結果、8,725人中4,794人(回答率54.9%)から回答がありました。</p> <p>「ふくしま健民カード発行件数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、啓発活動が予定通り行えなかったことから、基準値と比べ低下しました。</p> <p>今後は、予防事業の展開や保健師・管理栄養士等による健康教育・健康相談・訪問指導の実施、健康づくり推進員・食生活改善推進員の活動支援など様々な機会を捉えて啓発を行い、健康づくりの推進を図る必要があります。</p>						

## 基本事項② 病気の早期発見・早期治療の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
特定健康診査受診率	39.7%	34.8%			45.0%	—
市健康増進計画における5大がん検診受診率の目標を達成している検診数	5項目	2項目			5項目	—
<b>【主な状況、成果、課題等】</b> 「特定健康診査受診率」及び「市健康増進計画における5大がん検診受診率の目標を達成している検診数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、集団検診を中止し施設検診のみの実施となったことなどから、基準値と比べ低下したものと考えられます。 令和2年度から特定健康診査の自己負担金700円を無料化し、受診率の向上を図りました。引き続き、健康診査に合わせたがん検診の受診勧奨などを行い、受診率向上を図る必要があります。						

## 施策戦略4-(2) 地域医療体制の充実と健康寿命の延伸

数値目標	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
地域で支え合う仕組みづくりができていると思う高齢者の割合	56.8%	55.6%			65.0%	—
<b>【数値目標の傾向】</b> 「地域で支え合う仕組みづくりができていると思う高齢者の割合」は、基準値と比べ横ばいで推移しています。これは、避難行動要支援者名簿の町内会・民生委員・児童委員等との情報共有、敬老祝品配付に併せた一人暮らし高齢者等の状況確認などを継続的に実施してきたことが要因と考えられます。 <b>【施策戦略の総合評価】</b> 基本事項の各指標は、新型コロナウイルス感染症の影響がある中でも、堅調に推移していると考えられます。引き続き、地域医療の充実と地域包括ケアシステムの推進を図り、高齢者が地域で健康に暮らしていけるまちづくりを進める必要があります。						

## 基本事項① 地域医療の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
市内の医療体制に満足している市民の割合	76.7%	80.6%			85.0%	—
他の医療機関から紹介されて公立岩瀬病院を受診した患者の割合	38.0%	33.8%			50.0%	—
<b>【主な状況、成果、課題等】</b> 「市内の医療体制に満足している市民の割合」は、基準値と比べ増加しました。一方で、「他の医療機関から紹介されて公立岩瀬病院を受診した患者の割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、里帰り分娩の一時受け入れ停止など、医療行為に制限が加わったことや、不要不急の受診を控える動きがあったことなどから、基準値と比べ低下したものと考えられます。 令和2年度は、休日夜間診療所の運営支援や公立岩瀬病院における医師招へい活動の支援、かかりつけ医を持つ重要性の周知などに継続して取り組みました。引き続き、医療機関と行政、市民が協力し、安心できる地域医療体制の構築に努める必要があります。						

## 基本事項② 介護予防の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
健康的に自立した生活ができている高齢者の割合	81.2%	81.1%			81.2%	—
新規要介護認定者出現率	4.9%	3.7%			4.9%	—

### 【主な状況、成果、課題等】

「健康的に自立した生活ができている高齢者の割合」は、基準値と比べ横ばいで推移しています。一方で、「新規要介護認定者出現率」は、基準値と比べ低下し目標値を達成しています。これは、高齢者人口が増加している中、「ウルトラ長寿体操」や「通いの場」の普及など、要介護状態になることを予防するための取り組みを推進したことにより、自立した生活ができている高齢者が増えていることが要因と考えられます。

今後は、新型コロナウイルス感染症の影響により心身機能の低下が懸念されるため、フレイル予防の周知啓発に努めるとともに、生きがいづくりや健康づくりができる環境の整備、介護予防事業の推進などに引き続き取り組んでいく必要があります。

## 施策戦略4-(3) 住み続けられるまちづくりの推進

数値目標	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
市民活動に参加している市民の割合	8.2%	6.1%			10.0%	—

### 【数値目標の傾向】

「市民活動に参加している市民の割合」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用休止や市民の活動が制限されたことなどから、基準値と比べ低下しています。

### 【施策戦略の総合評価】

新型コロナウイルス感染症の影響により、様々な取り組みが制限される状況にありましたが、引き続き、公共交通網の充実や地域コミュニティの活性化、持続可能なまちづくりを目指し、市民、行政、関係機関などが連携して各種施策に取り組む必要があります。

## 基本事項① 交通網の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
公共交通の乗車人員	1,159,833人	1,068,041人			1,190,000人	—
交通手段がなくて困っている市民の割合	6.2%	5.2%			6.0%	—

### 【主な状況、成果、課題等】

「公共交通の乗車人員」は、新型コロナウイルス拡大に伴う緊急事態宣言や外出自粛の要請等により、基準値と比べ大幅に減少しました。一方で、「交通手段がなくて困っている市民の割合」は、基準値と比べ減少し目標値を達成しています。

令和2年度は、生活バス路線や循環バス、乗合タクシーの運行支援を継続するほか、須賀川市総合交通活性化協議会を開催し、新たな公共交通手段の検討や運行結果の評価を実施しました。引き続き、交通弱者や交通不便地域の解消に努めるとともに、新たな公共交通手段の検討や持続可能な交通網の充実を図る必要があります。

## 基本事項② 地域コミュニティ活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
市民・行政・地域がそれぞれ協力しあって地域課題に取り組んでいると思う市民の割合	67.5%	68.3%			76.0%	—
ふるさとづくり支援補助事業実施件数	40件	37件			45件	—
<b>【主な状況、成果、課題等】</b> 「市民・行政・地域がそれぞれ協力しあって地域課題に取り組んでいると思う市民の割合」は、基準値と比べ横ばいで推移しています。一方で、「ふるさとづくり支援補助事業実施件数」は、基準値と比べ減少しています。 令和2年度は、市民活動サポートセンターなどでの相談対応や活動支援、集会施設整備事業やふるさとづくり事業への支援など、市民による主体的な地域づくり活動の推進に努めました。 今後は、高齢化や地域コミュニティの希薄化が進む中、市民の主体的な地域づくりへの参加をさらに推進するため、市民と行政との協働や自治会活動の活性化支援などに取り組む必要があります。						

## 基本事項③ 持続可能な環境都市の構築

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H30)	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度実績値	目標値	進捗状況
住宅用再生可能エネルギー等システム設置補助利用件数	1,563件	1,855件			1,900件	—
リサイクル率(再資源化率)	17.2%	15.8%			18.0%	—
<b>【主な状況、成果、課題等】</b> 「住宅用再生可能エネルギー等システム設置補助利用件数」は、環境に対する意識の浸透や設備の低廉化などにより、基準値と比べ増加しています。 「リサイクル率(再資源化率)」は、新型コロナウイルス感染症の影響による家庭からのごみ排出量の増加、資源回収を行う各団体の資源回収量の減少などから、基準値と比べ低下したものと考えられます。 現在、持続可能な環境都市の構築に向けて、小学生へのESD環境教育の実施やごみ分別、ごみ減量化への啓発活動、再生可能エネルギー導入の推進などに取り組んでおり、今後もこうした取り組みを継続していく必要があります。						